



浪花百景「天保山」

天保山のおはなし 第三話

明治から大正にかけて、天保山周辺の農地は工場とそこで働く人向けの住宅に姿を変えていきます。明治21年(1888年)には娯楽施設「天保山遊園」がオープンし、海水を沸かして入浴する施設や洋館風の休憩所、魚釣りなどが楽しめるレジャースポットとなりました。この遊園地は明治30年(1897年)の築港工事の開始によりなくなります。明治36年(1903年)



明治30年頃の天保山灯台

には築港大
棧橋が完成
し、花園橋
から築港大
棧橋の間で



天保山私立遊園地略図

大阪発の市電が開通するなど、新しい市街地としてにぎわいました。しかし、地下水のくみ上げなどによる地盤沈下が進み、天保山の標高はどんどん下がっていきます。明治44年(1911年)に初めて天保山に二等三角点が設置されましたが、この頃の標高は9メートルほどだったそうです。当初



二等三角点

の高さに比べると約半分になってしまいました。また公園内には、明治の頃に大阪港の開港と発展のために尽力した大阪築港事務所の初代所長、西村捨三翁の像が建てられています。



西村捨三翁の像